



2016  
平成28年

5

# きずな

K I Z U N A

特集  
テーマ

子ども

ともに見守り ともに育てる



2

「サッカーを通じて、子どもたちに夢を届ける」

南山 千明選手 (INAC神戸レオネッサ)

3

「子どもとの関係づくり～指示・命令を少なくし、共感的応答で～」

平木 典子さん (統合的心理療法研究所長)

4

「『児童虐待防止』ではなく『子ども・家庭支援』」

辻 由起子さん (大阪府子ども家庭サポーター)

5

「子どもの『育つ権利』の保障を」

大石 亜希子さん (千葉大学法政経学部 教授)

6

「輝く子どもたちの未来のために」

NPO法人 Casaメーコッコ (明石市)

7

「自分と未来は変えられる～元受刑者の就労支援～」

中井 政嗣さん (千房株式会社 代表取締役)

8

情報ぶらさ



兵庫県マスコット  
はばたん

兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会

# サッカーを通じて、 子どもたちに 夢を届ける

INAC神戸レオネッサ 背番号6

みなみやま ちあき

南山 千明選手

児童虐待、いじめ、体罰など子どもにまつわる痛ましい事件が数多く報告されています。また、経済格差の拡大に伴い子どもの貧困も大きな社会問題になっています。このような状況を改善するためには、課題の正しい理解や発生防止に向けての取り組みを進めていく必要があります。

日頃から、子どもの心に寄り添って、家庭や学校だけではなく、地域全体で子どもを見守り、育てていくことの大切さについて考えてみましょう。

女子サッカー日本代表なでしこJAPANにも多くの選手を送り出しているINAC神戸レオネッサ。県と協会では、同団体と連携・協力して、子どもじんけんサッカー教室をはじめとする人権啓発活動を行っています。今回は、ミッドフィルダーとして活躍している南山選手にお話を伺いました。

## Q1 サッカーを始めたきっかけは。

A 兄の影響でサッカーを始めました。お兄ちゃんだけサッカーを習っているじゃない!! と思っていました(笑)。みんなとボールを蹴ることがとても楽しくて、サッカーに夢中になりました。周りは男の子ばかりでしたが、とても仲良くしてくれましたよ。

## Q2 プレー中、心がけていることは。

A どんなことも100%でやること! 元気よくやるに限ります!!

## Q3 子どもじんけんサッカー教室を通して、子どもたちに伝えたいことやうまくするためのアドバイスを。

A チームメイトを信頼することがとても大切。そして、どんなことも心の底から楽しむこと! そうすれば、ボールに触る時間も増えて、自然に

## Q4 今後の活動の抱負は。

上手くなっていくと思います。がむしゃらにボールを追いかけてみたら、何か変わるんじゃないかな? とにかくサッカーを楽しんでみてほしいです。

## A

中心選手だった澤選手や海堀選手が引退しましたが、そんな今シーズンだからこそ、リーグ戦、カップ戦、皇后杯、タイトルを全部獲りたいです。それに貢献できるように頑張ります。

まだ女子サッカーを見たことがない方たちもたくさんいると思います。ノエビアスタジアムはとてもアットホームですので、ぜひ一度スタジアムにお越しください! お待ちしております。

## プロフィール

1985(昭和60)年、千葉県生まれ。ポジションは、ミッドフィルダー。2010(平成22)年には、アジアカップの壮行試合で、なでしこジャパンに初選出された。翌年、澤穂希選手らと共にINAC神戸レオネッサに移籍。ピッチ内外で元気を振りまいて盛り上げる、チームのムードメーカー。



© INAC KOBE (Photo By T.INOUE)



© INAC KOBE (Photo By T.INOUE)

## ～INAC神戸レオネッサの紹介～

神戸市を本拠地とするクラブチーム、2001(平成13)年に創部。2006(平成18)年1部へ昇格。2010(平成22)年全日本選手権にて初タイトルを獲得し、翌年に念願のリーグ優勝を果たす。その後、リーグ3連覇。チーム名の「レオネッサ」とはイタリア語で雌ライオンを意味する。

# 子どもとの関係づくり 指示・命令を少なくし、共感的応答で

## 子どもと親の対立

子ども、特に幼い子どもは、大人よりも聴く力、応答する力が旺盛で、表現が率直です。

他者に対して応答する言葉は未熟で不十分ですが、相手の動きや表情、声の調子などの働きかけには敏感で、関心と好奇心をもつて聞き分け、自分の思いを端的な言葉で表現します。ただ、大人は子どもの拙い表現を聞いて自分の意図をわかつていないと判断しがちです。

とりわけ注意したいことは、子どもが「嫌だ!」と親の意に反する応答をしたときです。親は反対されたことにこだわって子どもの気持ちや言い分を理解しようとせず、思わず自分の思いをくり返してしまいます。「嫌なんだね」とか「嫌なの?」といった共感の一言がないために、良かれと思って伝えた親のメッセージも子どもの訴えも理解し合えないまま、言い分の応酬が始まり、関係までこじれていきます。

## 聞き流さず「聴く」には

前述の状況は、親が子どもの訴えに共感的応

答をしていない姿です。転んで泣いている子どもに「泣かない!」とか「さあ、立って!」と言うようなものです。子どもにとってその反応は親が言葉や声を「聞いた」だけで、自分の心に寄り添って「聴こう」、「共感しよう」としていないことを意味します。子どもはさらに激しく泣いて「わかってほしい」と訴えるでしょう。

「聴く」とは、そんなときまず「痛かったでしょう」とか「大丈夫?」といった共感の言葉かけをすることです。その応答によって、子どもは安心するでしょう。そのメッセージは、子どもを大切にし、関心をもつて見守り、育てようとする親の思いを伝え、子どもは一生、その支えを力にして前進することができます。

## 親が忘れがちな共感的応答

人は言葉で表現する能力が高まるにつれて、言葉だけを聞いて分かった気になる傾向が強くなります。その結果、相手の心に寄り添って聴き、応答する一言を省略し、まず自分の言い分を伝えてしまいます。とりわけ相手から誤解や反

統合的心理療法研究所長

ひらきのりこ  
平木典子さん

対を受けると、すぐに反論したくなります。実は、そのときこそ、まず相手の言い分を聴く必要があるときなのです。共感的応答は、思い違いや誤解を少なくする「コミュニケーションの要である」、それがあつて初めてよりよい親子関係や人間関係が創られていくことを覚えていくのです。共感的応答を心がけてみませんか。



## プロフィール

津田塾大学英文学科卒業。ミネソタ大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。立教大学、日本女子大学心理学科、跡見学園女子大学臨床心理学科、東京福祉大学大学院を経て、1995(平成7)年から現職。大学ではカウンセリング、臨床心理学、家族心理学を担当し、一般の人々にはアサーション(自己尊重の自己表現)を広めるトレーニングを実践している。著書は、『新版 カウンセリングの話』(朝日新聞社)、『家族の心 理-家族への理解を深めるために』(共著 サイエンス社)、『子どものための自分の気持ちの言える技術』(PHP研究所)など多数。



# 「児童虐待防止」ではなく「子ども・家庭支援」

大阪府子ども家庭サポーター

辻由起子さん

『虐待をしたくてしているのではない。とても困難な状況に陥ってしまった家庭ばかりなので、子育てや家庭を守ることをしないと、何の解決にもならない。』

2015(平成27)年12月27日、東京都清瀬市にある児童養護施設「子供の家」にて行われた「児童虐待防止講演会」。その時に施設長の早川悟司さんがおっしゃった言葉です。「我が意を得たり!」でした。

子ども・家庭支援を始めて19年が経ちましたが、虐待をするつもりで子どもを産んだ人に、今まで一度も会ったことがありません。皆さん、幸せになりたくて家庭をつくっています。人生の歯車が狂い始めるのは、「育児不安」や「育児困難」など、小さなことがきっかけです。そして「不安」や「困難」から親を救うことが、子どもの現在と未来を救うことに直結します。

「不安」や「困難」が小さいうちに誰かと繋がり、支えてもらうことが出来れば問題は解消されるのですが、孤立

してしまつと問題はすぐに大きくなります。学校では子育てのやり方を教えてくれないので、子育てのやり方がわからなくて悩むのは当然です。身近な地域社会に関わっていないと、学ぶ機会すらありません。

「何かお手伝いしましょうか?」、「困った時はお互い様ですよ」、「いつも頑張っていますね」、そんな小さな思いやりのある声かけが、親子の心を救います。小さな優しさの積み重ねが、この社会には足りていません。

これからの時代、やっていかないといけないのは、「児童虐待防止」ではなく、「親子のエンパワメント」です。

「エンパワメント」とは、親子で生きる力、暮らす力、困難から立ち直る力など、本来持つて生まれた命の力を思い出し、学んでもらって、強化していく活動です。社会で起きている問題はすべて、「社会の一員」である自分に繋がっている問題なので、一人ひとりがほんの少しでもいいから他人に優しくなつて、「おせっかい」な行動を起こせ

ば、優しさやぬくもりの連鎖が広がり、「負の連鎖」を断ち切れると信じています。誰かを責めても何の解決にもなりません。

「見張る」のではなく、「見守る」。「防止」ではなく、「愛護」。

意識の置き所を変えるだけで、日常の行動が変わり、現実が変わります。優しさの連鎖が社会に広がりますように。

## プロフィール

18歳で結婚し、19歳で娘を出産、23歳で離婚。仕事、出産、育児、家事をこなしながら、通信教育で大学を2回卒業。リスクだらけの子育て経験と、小・中学校の相談員の経験から、すべての人が子育てを楽しめる社会をめざして活動中。茨木市市政顧問、一般財団法人親学推進協会 親学アドバイザー・講師・理事を兼ねる。



## 児童虐待防止24時間ホットライン

こども家庭センター(児童相談所)では、子どもの健やかな成長を願って、子どもと家庭のさまざまな問題について相談援助活動を実施しています。児童虐待の通告や相談については、下記へご連絡ください。

| 兵庫県         | TEL           |
|-------------|---------------|
| 中央こども家庭センター | (078)921-9119 |
| 西宮こども家庭センター | (0798)74-9119 |
| 川西こども家庭センター | (072)759-7799 |
| 姫路こども家庭センター | (079)294-9119 |
| 豊岡こども家庭センター | (0796)22-9119 |

| 神戸市          | TEL                             |
|--------------|---------------------------------|
| 神戸市こども家庭センター | (078)382-2525<br>(平日8:45~17:30) |
| (児童虐待夜間休日相談) | (078)382-1900<br>(上記以外)         |

# 子どもの「育つ権利」の保障を

子どもにお金を使ってこなかった日本

今年の6月から選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられます。これによって、若い世代の声がより国政に反映されやすくなると期待する声もあります。しかし、そもそも日本社会は子どもをはじめとして若い世代に目を注いできたでしょうか。数字をみれば明白です。

まず、日本で児童・家族への公的支出が国内総生産(GDP)の1%を超えたのは、つい2010(平成22)年のことです。少子化が問題になった1990(平成2)年から実に20年間、政府は子どもにお金を使ってこなかったのです。ちなみにヨーロッパの国々は軒並みGDPの3%程度を児童・家族に支出しています。<sup>※1</sup> お金を出し惜しみしてきたのは日本の公教育も同様で、GDPに占める公教育への支出は、先進国中最低部類です。また、子どもの貧困率の上昇に歯止めがかからないのも、先進諸国では日本だけです。現在、全国平均では6人に1人の子どもの貧困にあります。<sup>※2</sup>

「時間の貧困」も深刻

経済面の困窮は、別の問題ももたらしています。「時間の貧困」です。近年、生活のために長い時間働いたり、早朝や深夜など不規則な時間に働いたりする人々が増えています。親たちも例外ではありません。結果として、子どもが親と過ごせる時間が圧迫されたり、親(とくに母親)の睡眠時間が削られたりしています。

「時間の貧困」がとくに深刻なのは母子世帯です。母子世帯ではふつう、お母さん以外に働き手も子どもの世話をする人もいないからです。

政府は「一億総活躍」の名のもとに、女性にもたくさん働いて経済的自立を果たすようにと熱心に説いています。しかし、子育て支援も貧困対策もせず、に就労だけを追求すれば、子育てに充てる時間がなくなるのは当然です。子どもからみれば、親と過ごす時間を奪われるのに等しいといえましょう。

子どもが育つには時間とお金の両方が必要です。子どもの「育つ権利」を保障するように、社会を造りかえていか

千葉大学法政経学部 教授

大石 亜希子さん  
おおいし あきこ

なければなりません。そのために私たちができる第一歩は、地域の親子を支えることでしょうか。たとえば私の住む東京都豊島区をはじめとして、いま各地で「子ども食堂」や学習支援の取り組みがスタートしています。地域の力を合わせて、一人ひとりの子どもの育ちを皆で見守っていくことが大切です。

※1 国立社会保障・人口問題研究所 平成25年度 社会保障費用統計  
※2 厚生労働省 平成25年国民生活基礎調査

## プロフィール

専門は労働経済学、社会保障論。母子世帯の貧困問題、子育て世帯間の所得格差の国際比較研究等に従事。近著は「ワーク・ライフ・バランスと労働」(島津明人と共著)、川上憲人・橋本英樹・近藤尚己編『社会と健康 健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』(ともに2015年、東京大学出版会)。



## 映画紹介

杉原千畝 スギハラチウネ



(C)2015「杉原千畝スギハラチウネ」製作委員会

監督:チェリン・グラック  
出演:唐沢寿明・小雪・小田方文世  
139分

4月27日から5月10日まで、パルシネマ  
しんこうえんにて上映されます。  
●お問い合わせ 078(575)7879

杉原千畝といえば、本国の意向に逆らって命のビザにサインし、多くのユダヤ人を救った外交官として知られています。でも、その背景となる当時の国際情勢や、ビザだけではユダヤ人たちの脱出はできなかったというようなことは、ほとんど知られていないと思います。この映画ではそのあたりの状況、杉原の人となり、丁寧かつ的確に描かれています。

杉原の希望はソ連への赴任でしたが、「歓迎されざる人物」としてソ連側から拒絶されたことが、リトアニア領事館赴任へと繋がっていきます。大戦という時代状況の中での彼の確かな情勢分析も紹介されています。日本の採るべき選択肢の材料として、ヨーロッパ情勢を本国に伝えようと頑張っている姿や、ビザに署名することに賛成する妻との関係も、簡潔に描かれます。

日独伊三国同盟など当時の世界情勢を押さえたうえで、杉原だけではなく、ユダヤ人の脱出を助けた他のエピソードをも描いたことが、この映画の興行気を深めています。





人や自然と触れ合える出会いの場を提供  
2002(平成14)年に、初代理事長の  
松山清さん、靖子さんご夫婦は、食の大切

住宅街に囲まれた小高い丘の上に立  
つ、オレンジの屋根が特徴的な「NPO  
法人Casaメーコッコ」。2005(平  
成17)年から、NPO法人として、子ども  
の社会化※を支援するため、家族のきず  
なづくり、地域のつながりづくりを続け  
ています。

## 輝く子どもたちの 未来のために



カーサ  
NPO法人 Casaメーコッコ  
(明石市)

さや人とのつながりを感じてほしいと  
「農事プログラム」を始めました。これは、  
山羊や鶏を飼育し、作物を育てながら、大  
人と子どもが一緒に作業したり、調理し  
たりするものです。  
きっかけは、松山さんが里親になった  
こと。松山さんは実子の他に、1年以上の  
長期間では7人、夏休みなどの短期間では  
30人以上を里子として受け入れてきま  
した。  
里親になることは難しいことのように  
思われますが、「特別なことをしているわ  
けではない」と松山さん。「里子の一人が  
大人になって自ら里親登録してくれたこ  
とがうれしかった」と続けます。自分たち  
の経験をいかしていきけるように「里親サ  
ロン」など里親を支援する活動を続けて  
います。

### 多様な活動で育ちを支援

ほかにも、「子育てなんでもダイヤル」  
の開設や子育てに関するセミナーの開  
催、サンピア明石内の「明石子ども図書館  
みなくる」の運営など幅広く活動してい  
ます。「みなくる」は、子どもと保護者が一  
緒に本を読み、ゆつくりとした時間を過  
ごせると好評です。

現在の代表は、野元京子さん。それぞ  
れの活動について「共通の目的は、子どもが  
育ちやすい環境、子どもを育てやすい環  
境づくり。切り口を変えながら、子どもの  
社会化を支援したい」と話します。

※子どもなどが、社会の文化や価値と規範を身  
に付けること。

～ はなしてすっきりしませんか ～  
**子育てなんでもダイヤル**  
毎週水曜日10:00～16:00  
※休日 祝日・年末・年始・お盆  
いいこに  
**TEL 078-938-1152**  
<http://www.geocities.jp/meecocco/>

「子育てなんでもダイヤル」では、  
一、秘密は守ります。  
一、名前が名乗らなくていいですよ。  
一、しんどくなったら、途中で  
切ってもかまいません。  
一、どんなことでも一緒に  
考えましょう。

主催  
NPO法人  
Casaメーコッコ

※明石市子ども基金助成事業

どんな相談でもお気軽にお電話ください。  
心理カウンセラーの川島みどりさんをはじめ、  
研修を積んだボランティアが相談に応  
じます。



農事プログラムの様子。  
作業を通して、子どもは  
大人から知恵やたくま  
しさ、技を学びます。



Casaはイタリア語で、「傘の下で身を寄せ合う、助け合  
う」の意味。メーコッコは「山羊と鶏の鳴き声」。松山清さ  
んは、長年の取り組みが評価され、2013(平成25)年に旭  
日双光章を受章されました。

住 所 明石市大久保町西脇623-7  
連絡先 078(936)0435

# 自分と未来は変えられる

## 元受刑者の就労支援

2009(平成21)年、山口県美祿市にある半官半民の民活刑務所から受刑者の就労支援の依頼が来ました。これは、千房の創業当時、採用者の過去を問わず雇用してきた従業員の中に元受刑者がいたからです。彼は立派に立ち直り幹部になっていった実績があります。それを知った法務省が熱心に協力雇用主※の依頼をされてきたのです。

私には学歴も能力もありませんでした。そんな私を色々な人達が支えてくださったお陰で現在があります。経営や人の教育は「駅伝」とも言われます。自分が受けた恩を次の人にバトンタッチすることが私の使命です。過去は変えられないが自分と未来は「変えられる」。罪を償い

反省をし、更生する気持ちがあればチャンスを与えてあげたいと強く思ったのです。

社内では勿論賛否両論。お客様が怖がってお店に来てもらえなかったら倒産します。私は腹をくくったのです。「受刑者の就労支援を実施する」。全社員に通達しました。この取り組みはすべてオープンにしよう。受刑者に対する社会の偏見を少しでも緩和させたい。その為にはオープンにすることが大切だと思いました。結果この取り組みはマスコミでも大きく取り上げられることとなりました。

その後、「支援したい」と日本財団から有難い申し出がありました。元受刑者の職の親としての「職親プロジェクト」がスタートしたのです。関西に次いで、東京、昨年は福岡にも発足しました。私たちが身元引受人となり、着のみ着のまま仮出所仮出院する者達を受け入れる。やがてはその人たちが幹部となり、刑務所へ出向き採用していく。夢のような現実がいよいよ見えてきました。

※犯罪・非行の前歴のために定職に就くことが容易でない刑務所出所者等を、その事情を理解した上で雇用し、改善更生に協力する民間の事業主

## きずなトピック

千房株式会社  
代表取締役

なか い まさ つぐ

中井 政嗣さん

それで  
ええやんか!

新着図書紹介

著者

中井政嗣

発行所

潮出版社



プロフィール

1945(昭和20)年、奈良県葛城市生まれ。中学卒業と同時に乾物屋に丁稚奉公に出る。1973(昭和48)年、大阪・千日前にお好み焼き専門店「千房」1号店を開店。現在国内外に62店舗を展開。青少年の育成にも熱心で全国各地で講演を行う。法務省矯正広報大使等を兼ねる。著書に『それでええやんか!』(潮出版社)等がある。



「ナニワの名物社長」が、人の輪の中に飛び込み育んできた「人生哲学」「人材育成論」が凝縮された一冊。人間の生き方として、「ありのままのええねん」「自然体でええねん」というメッセージをタイトルに込めた中井さん。

本書には、丁稚奉公から現在に至るまでの経験をもとに、「逢うたが因果」の心に人と人の絆が深まる、「人のためにどう動くか」大震災を経験して「など10章にわたって、人を大切にすることにこだわる著者の熱い思いが綴られています。





# 子どものSOSをキャッチする 「子どもの人権110番」

「いじめ」や体罰、不登校や親による虐待といった、子どもをめぐる人権問題は、周囲の目につきにくいところで発生していることが多く、また被害者である子ども自身も、その被害を外部に訴えるだけの力が未完成であったり、身近に適切に相談できる大人がいなかったりする場合が少なくありません。

「子どもの人権110番」は、このような子どもの発する信号をいち早くキャッチし、その解決に導くための相談を受け付ける専用相談電話です。

電話は、最寄りの法務局・地方法務局につながり、相談は、法務局職員又は人権擁護委員がお受けします。相談は無料、秘密は厳守します。法務省のホームページでも相談を受け付けています。



**電話番号** フリーダイヤル **0120-007-110** 全国共通・無料

**受付時間** 平日午前8時30分から午後5時15分まで 注)IP電話からは接続できません。



## イベントガイド

|                                   |                                                                                                                                                                                                                           |                                                                   |
|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| <p>(神戸市)<br/>ハートフルシネマ<br/>サロン</p> | <p><b>日時</b> 5月11日(水) 入場無料・事前申込不要・当日先着順<br/>昼の部 13:30~16:20 夜の部 18:30~21:20 各開演の30分前に開場<br/><b>場所</b> 神戸文化ホール 中ホール ※神戸市営地下鉄西神・山手線「大倉山」駅から徒歩1分<br/>憲法週間に、様々な人権課題について考えていただくために、啓発映画等の上映をします。<br/>「ここから歩き始める」「あん」(2本上映)</p> | <p><b>問い合わせ</b><br/>神戸市保健福祉局人権推進課<br/><b>TEL 078-322-5234</b></p> |
| <p>(姫路市)<br/>第1回<br/>人権学習地域講座</p> | <p><b>日時</b> 5月11日(水) 14:00 ~<br/><b>場所</b> 姫路市立図書館網干分館<br/>※山陽電車「網干」駅下車西側すぐ ※駐車場がありませんので公共交通をご利用ください。<br/><b>講師</b> 榎井 緑さん(大阪大学特任准教授) 演題「多文化共生のまちづくり」<br/>姫路市では全8回の「人権学習地域講座」を予定しています。詳細はお問い合わせください。</p>                 | <p><b>問い合わせ</b><br/>姫路市人権啓発センター<br/><b>TEL 079-282-9801</b></p>   |

ラジオ関西「ハートフルフィーリング 谷五郎のところにきくラジオ」(毎週月曜10:00~15:00)で、  
14:35頃からきずなの記事を紹介しています。



あたりまえ いつもの料理 ありがとう  
(姫路市 阿部裕哉さん)

大丈夫 みんなの言葉で 笑顔さく  
(姫路市 恒岡 輝さん)

## 人権に関する川柳を募集します!

いずれかのテーマに当てはまる川柳を募集します。  
優秀作品は「きずな」に掲載し、オリジナルクリアファイルをプレゼント。

**募集テーマ** 外国人、同和問題、高齢者

**応募方法** はがき、FAX、メールで受け付け。  
郵便番号、住所、名前(ペンネームの場合も併記)、年齢を明記のうえ、ご応募ください。  
6月3日(金)締め切り。(応募は、各テーマお1人1点とします。)

インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品に限りします。

**応募先** (公財)兵庫県人権啓発協会 啓発・研究部(下記参照)

ハーフ  
half  
タイム  
time

子どもの虐待について、痛ましい報道が続いています。どうすれば虐待を防ぐことができるのでしょうか。報道では、

加害者を非難する内容が目立ちますが、それだけでは根本的な解決にはならないようです。本号(4頁)の寄稿者である辻さんの「誰かを責めても何の解決にもなりません」との言葉に考えさせられました。隣人に関心を持ち、温かい声がけをする。ちょっとした「おせっかい」が私たちにできる一つのことかもしれません。被害者も加害者も生まれない社会を切に願います。(小池)

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内  
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 ✉info@hyogo-jinken.or.jp

兵庫県人権啓発協会

検索

2016(平成28)年5月発行